



大阪医学統計学セミナー 第7回

Osaka Biostatistics Seminar

3月13日 (火)
18:00~19:30



臨床試験の生存時間型データに対する中央値の差の
信頼区間の性能評価

講演者：川口啓子(塩野義製薬株式会社)

概要：

インフルエンザ治療薬の臨床試験では、有効性の評価項目としてインフルエンザ症状が消失するまでの時間が用いられ、このデータを要約する指標として、各治療の中央値とその信頼区間が臨床論文で広く報告されている。もし、2つの治療を比較する解析方法として、重み付きlog-rank検定を適用した場合、等しくない重みを与えた場合の重み付きlog-rank検定に対応する治療効果の大きさを表す指標がない。そのため、先に述べた通り、各治療の中央値が広く利用され、臨床的解釈に用いられていることから、各治療の中央値の差を統計的に評価した結果を示すことで、治療効果の大きさを統計的に裏付けて議論することができる。そのため、生存時間型のデータの中央値の差の信頼区間を算出するための既存の各種方法論(漸近正規性に基づく理論的な方法とリサンプリングに基づく方法(Bootstrap法, Perturbation法))を整理し、その性能を被覆確率用いて比較し、各種方法論の特徴を紹介する。ただし、中央値の差の信頼区間を算出するための既存の方法は、重み付きlog-rank検定に対応していないことから、この解析方法に対応する信頼区間の算出方法とその性能も合わせて検討した結果を紹介する。

場所：
医学系研究科基礎研究棟L階
医学統計学研究室

お問い合わせ：大阪大学大学院医学系研究科・医学部 医学統計学講座
E-Mail : office@biostat.med.osaka-u.ac.jp TEL : 06-6879-3301